

オープンアクセス・サミット2013

OAの潮流と機関リポジトリ

2013年6月6日

国立情報学研究所

安達 淳

CSIとは？

■ CSI (Cyber Science Infrastructure)

- 我が国の大学等の研究機関が有しているコンピュータ等の設備, 基盤的ソフトウェア,
コンテンツ及びデータベース,
人材, 研究グループそのものを超高速ネットワークの上で共有する「最先端学術情報基盤」

■ 学術コンテンツ基盤

- 大学等の教育・研究機関の構成員(研究者・学生)が必要とする学術コンテンツを, 学術コミュニティと連携して確保・形成し, 付加価値を付けて提供することで, 教育・研究に貢献する



学術コンテンツ基盤：学術コンテンツの確保と提供

提供

NIIの提供する学術コンテンツ

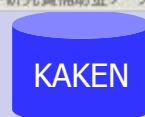
論文情報

機関発信情報

図書・雑誌情報

専門学術情報

研究情報



海外電子ジャーナル等の本文情報
370万件
人文系電子コレクション
19万件

論文情報のメタデータ・リンク情報
1,530万件

機関リポジトリ搭載の学術情報のメタデータ・リンク情報
130万件

図書・雑誌の書誌・所在情報
書誌1,000万件
所蔵1.2億件

図書・雑誌の書誌情報他
2,500万件

専門学術情報資源(データベース)
218万件

科学研究費補助金の研究課題・成果情報
67万件

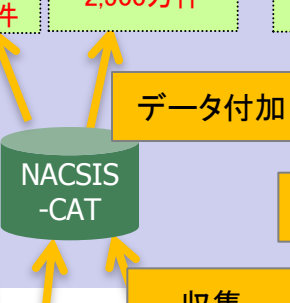
アーカイブ

データ統合



学協会誌掲載論文の本文情報
380万件

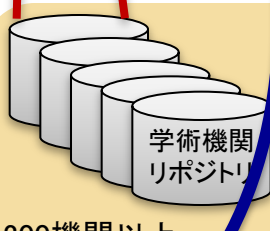
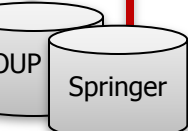
電子化



受入

電子化

JSPS MEXT



学術出版社

他機関のDBサービス

200機関以上

大学・学術機関

1,200機関以上

* データ件数は
平成24年3月末現在

日本における学術情報流通の動向

日本語の論文

英語の論文

CiNii

IFなし

日本の学会による
日本語のジャーナル

第3期からのSPARC Japan
(SCOAP3, arXiv)

73,000論文/年
(世界の8.1%)

日本の研究者
／
論文著者

国際学術雑誌論文
国際会議発表論文

IFあり

機関リポジトリ

日本の学会による
英文ジャーナル

22,000論文/年

第2期までの
SPARC Japan

Gray literature

学位論文, 紀要論文,
テクニカルレポート

機関リポジトリの役割

機関リポジトリの二つの役割

オープンアクセスによる
情報の公開・提供

■ セルフアーカイブ

研究者コミュニティへの貢献

- ◆ E-journalとして収録されている論文のアーカイブ
- ◆ 日本は世界の約8.1%の割合で貢献しなければならない
- ◆ STMでは、業績データベースや科研の申請書に記載するような成果論文(?)

■ 大学の生産する情報の公開

社会へのアカウンタビリティ

- ◆ 学位論文
- ◆ 紀要
- ◆ 研究に付随する電子データ

現下のOAの論点

- Gold OAがメインストリームへ（図書館はスルー？）
 - オープンメガジャーナル
 - Finchレポート（UK）
 - Gold vs. Green
 - APCを、誰が、いくら、どのようにして払うのか？
- 改めて、なぜ、OAか？ 20年の紆余曲折
 - セルフアーカイブ、Gold OA、納税者のアクセス
- 登録義務化
 - 研究助成団体の動き、Global Research Council
 - 日本では学位論文が制度化、では科研費は？

委託事業の期

CSI委託事業： 三つの期、8年に渡るプロジェクト

区分	内容
第1期(H17-19)	- 対象: 大学、短大、高専 - 領域1 (機関リポジトリ構築・運用事業) - 領域2 (先駆的な研究開発事業)
第2期(H20-21)	- 対象: 大学、短大、高専、大学共同利用機関 - 領域1 (機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充) - 領域2 (リポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築)
第3期(H22-24)	- 領域1 (コンテンツ構築支援) * システム構築経費は支援対象外 - 領域2 (先導的プロジェクト支援) - 領域3 (学術情報流通コミュニティ活動支援)

委託事業数の推移

□ 第1期(H17-19), 第2期(H20-21)

- ・ 領域1(機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充)
- ・ 領域2(リポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築)

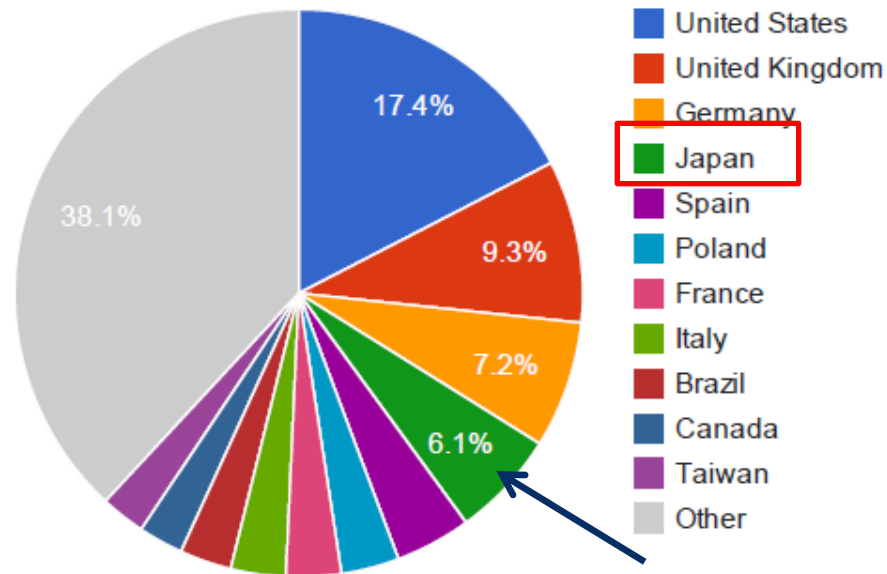
□ 第3期(H22-24)

- ・ 領域1(コンテンツ構築支援)
- ・ 領域2(先導的プロジェクト支援)
- ・ 領域3(学術情報流通コミュニティ活動支援)

区分	第1期			第2期		第3期	
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
領域1	19	57	70	68	74	24	31
領域2	2	22	14	21	21	8	8
領域3	-	-	-	-	-	5	4

機関リポジトリ:世界の状況

Proportion of Repositories by Country - Worldwide



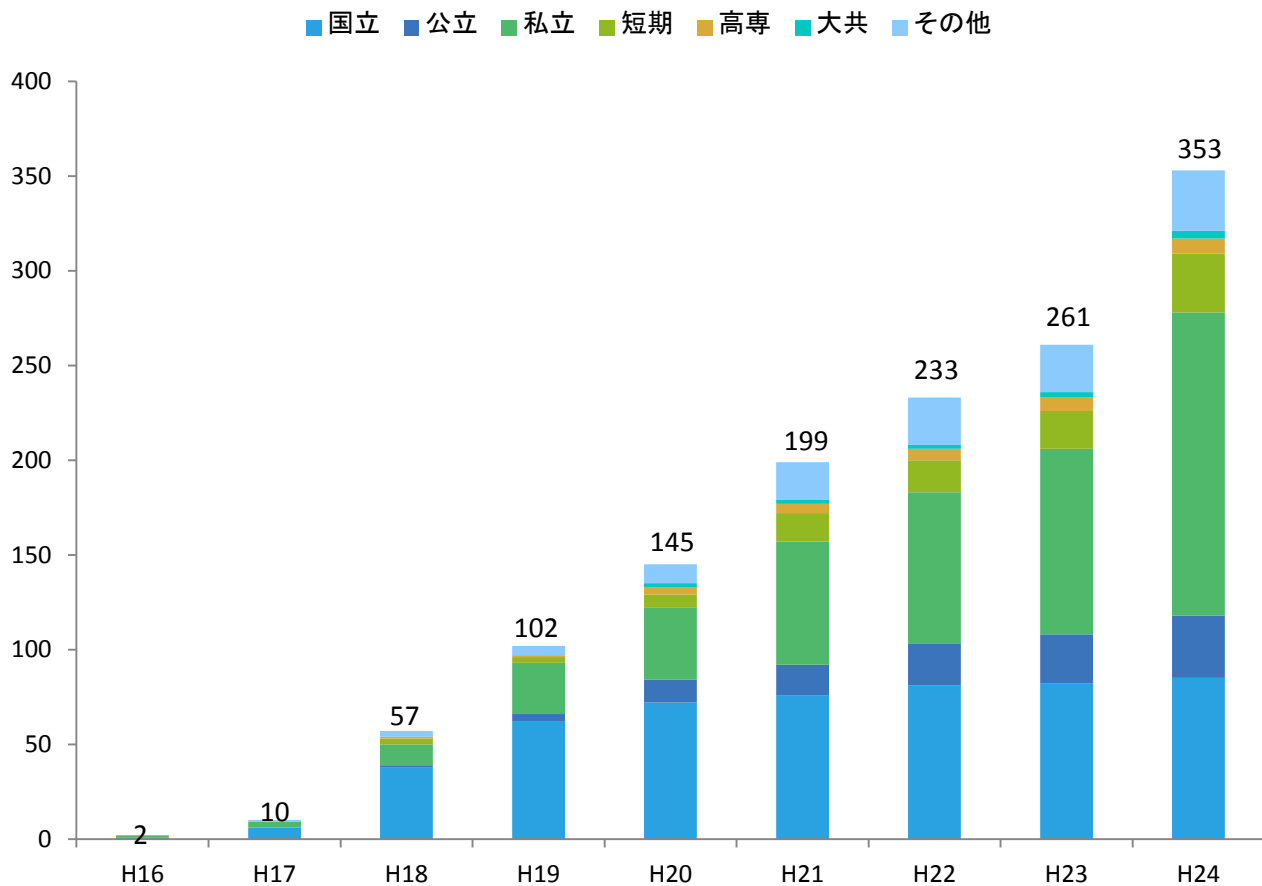
138機関

Total = 2269 repositories

OpenDOAR - 03-Apr-2013

出典: Open DOAR: Directory of Open Access Repositories
<http://www.opendoar.org/> (参照:2013/4/3)

機関リポジトリ構築機関数の推移

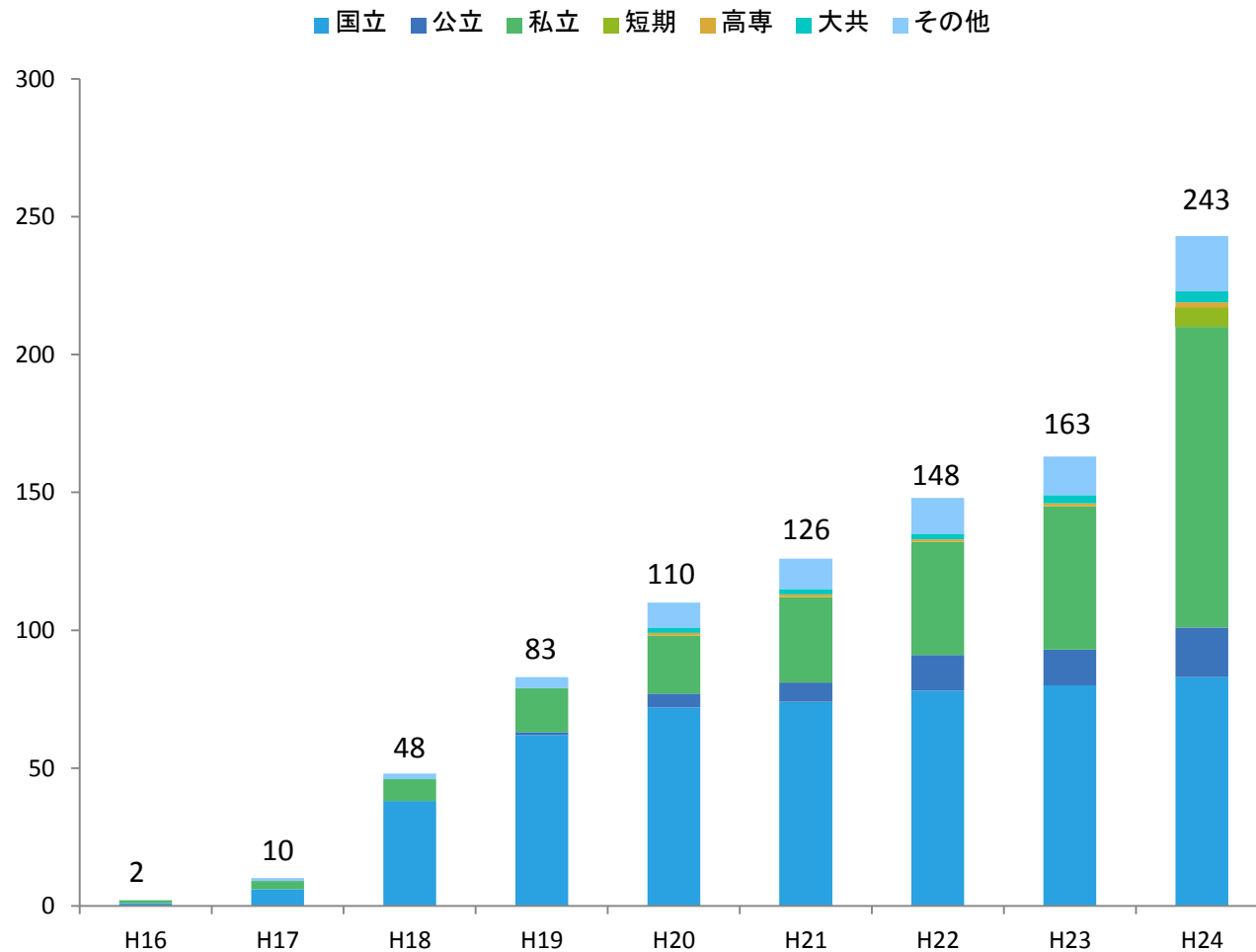


機関リポジトリ構築機関数

国立大学	85
公立大学	33
私立大学	160
その他	75
合計	353

(平成25年3月末時点)

機関リポジトリ数の推移

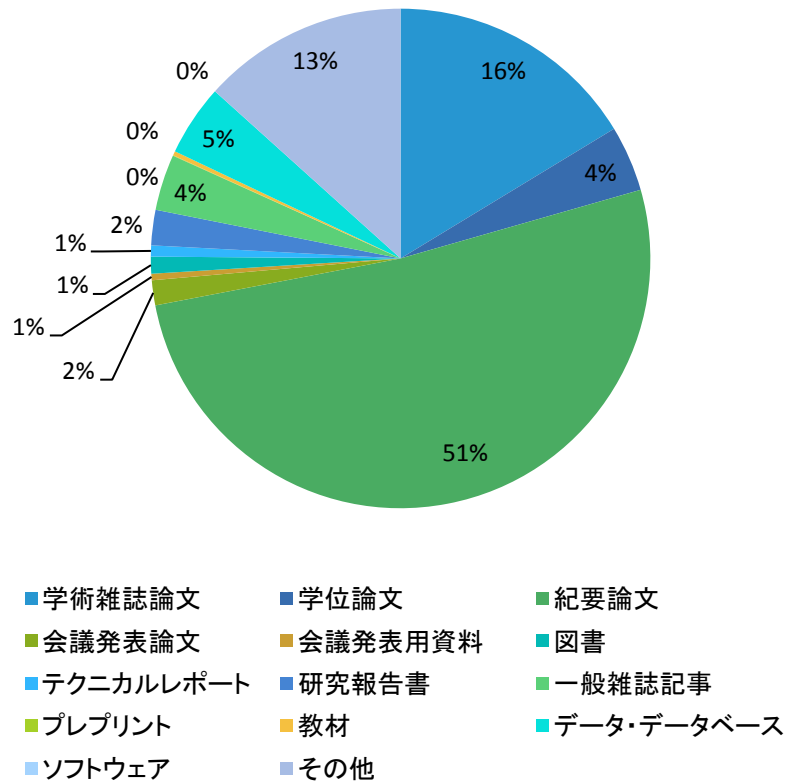


機関リポジトリ数

国立大学	83
公立大学	18
私立大学	109
その他	33
合計	243

(平成25年3月末時点)

本文有りコンテンツの登録状況

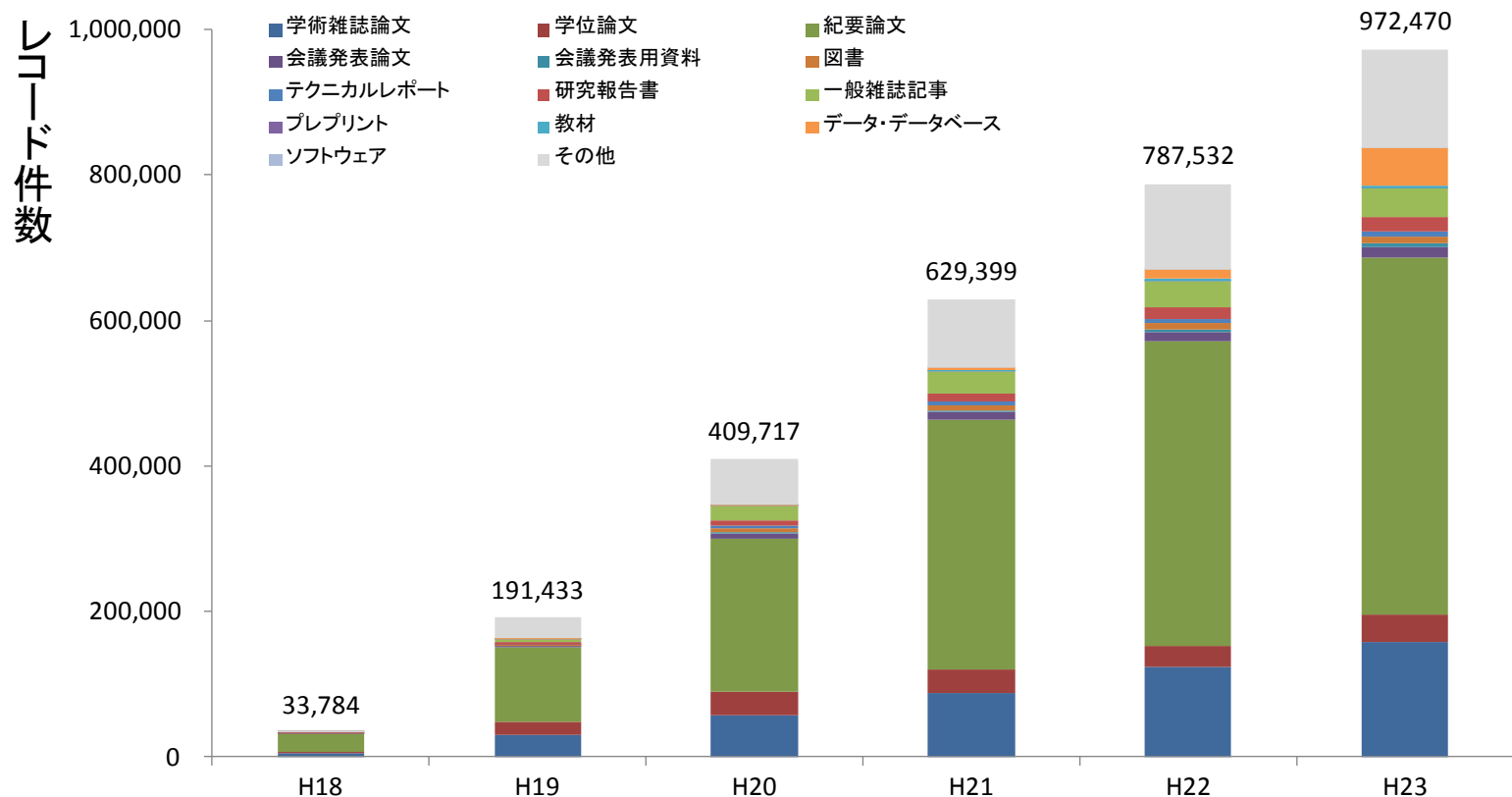


資料の種別	コンテンツの数	割合
学術雑誌論文	185,397	16.3%
学位論文	48,371	4.3%
紀要論文	584,352	51.4%
会議発表論文	18,384	1.6%
会議発表用資料	4,774	0.4%
図書	12,394	1.1%
テクニカルレポート	8,220	0.7%
研究報告書	25,979	2.3%
一般雑誌記事	41,203	3.6%
プレプリント	336	0.0%
教材	3,160	0.3%
データ・データベース	52,412	4.6%
ソフトウェア	26	0.0%
その他	151,500	13.3%
合計	1,136,50	

IRDBコンテンツ分析システム <http://irdb.nii.ac.jp/analysis/index.php>

(2013年3月末時点) (参照: 2012/06/03)

本文ありコンテンツ登録数の推移



年度	学術雑誌論文	%	学位論文	%	紀要論文	%	他	%	計	%
H18	4,916	15%	667	2%	25,834	76%	2,367	7%	33,784	100%
H19	30,597	16%	16,628	9%	103,289	54%	40,919	21%	191,433	100%
H20	56,251	14%	32,307	8%	211,457	52%	109,702	27%	409,717	100%
H21	87,748	14%	32,588	5%	343,543	55%	165,520	26%	629,399	100%
H22	123,434	16%	28,303	4%	419,569	53%	216,226	27%	787,532	100%
H23	157,705	16%	38,017	4%	491,247	51%	285,501	29%	972,470	100%

※ 各年度3月末時点の数値

機関リポジトリのコンテンツ捕捉率の試算

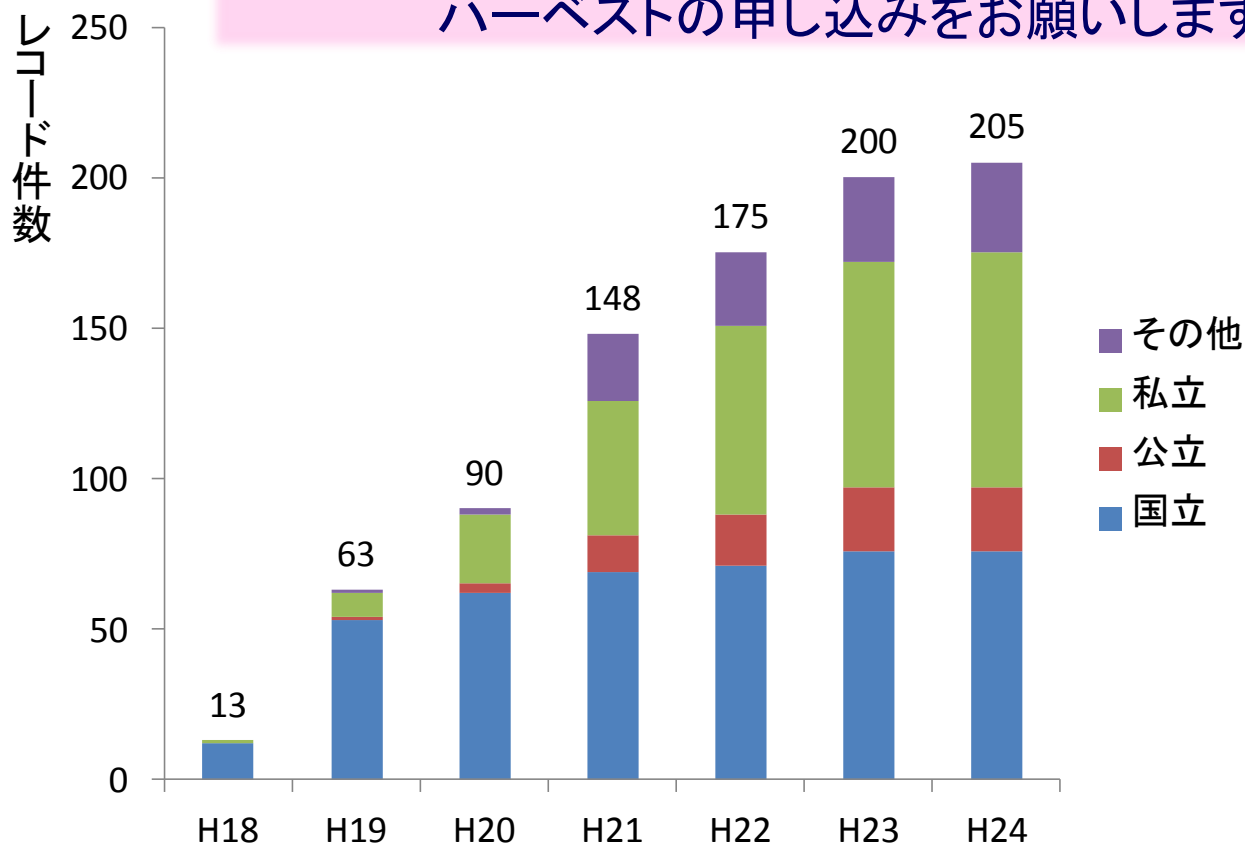
コンテンツ種別	根拠となる件数	補足率
紀要論文	総件数 : 約102万件 ¹⁾ 機関リポジトリ収録件数 ²⁾ : 約47万件	46.3%
学位論文	総件数 : 約56万件 ³⁾ 機関リポジトリ収録件数 ²⁾ : 約3万5千件	6.2%
学術雑誌論文	英文論文数 ⁴⁾ : Web of Scienceの収録論文(2009年出版分)のうち、著者の 所属機関が日本の論文 : 約7万9千件 機関リポジトリ収録件数 ⁴⁾ : 約2,900件 別試算では5.2% IRによっては13%まで	3.7%

(注)

- 1) CiNii(NII-ELS)収録の紀要論文数
- 2) JAIROのデータ収録件数(本文あり), 2011年12月末時点
- 3) NII-DBR「博士論文書誌データベース」収録論文数
- 4) 尾城孝一. オープンアクセス序論: 概況報告. シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」
2010年12月10日. http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2010/pdf/7/1_OA_introduction_final.pdf

JAIRO/IRDB対象機関数の推移

機関リポジトリ構築後は、JAIRO/IRDBによる
ハーベストの申し込みをお願いします



※ 各年度3月時点の数値(H24は5月時点)

共用リポジトリ(JAIRO Cloud)

□ 事業内容

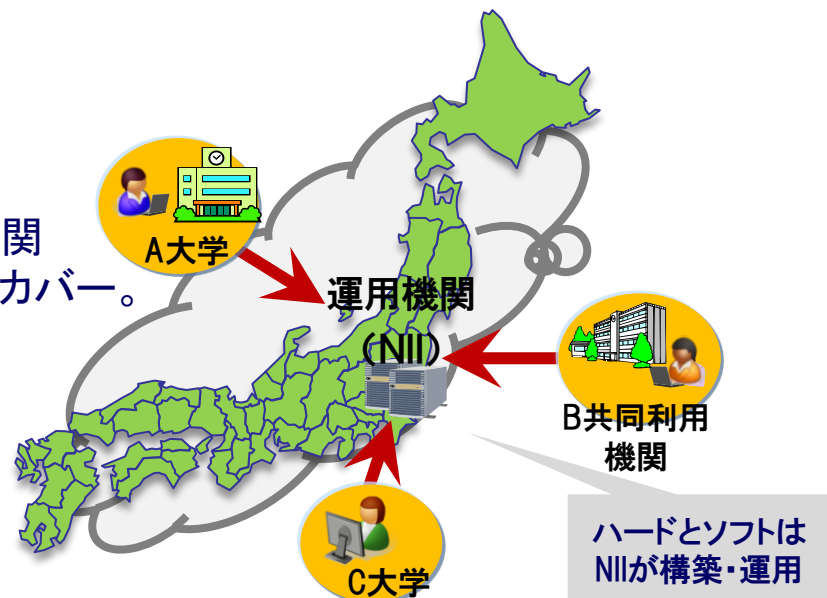
- 機関リポジトリの自力構築が困難な機関向けに、リポジトリのシステム環境を提供し、運用を支援する。
 - NIIが開発した機関リポジトリソフトウェア「WEKO(ウェコ)」をベースに、共用リポジトリのシステム環境を構築
 - 2011年11月から募集を開始、2012年4月からサービスイン

□ サービス対象

- 日本国内の大学、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関のうち、当面は次の機関を対象とする。
 - 新たに機関リポジトリを構築する機関
 - 地域共同リポジトリを構築する機関

□ 事業の目標

- 平成27年度までに200機関の新規構築
 - 既構築機関(約200機関)と併せて400機関となり、博士後期課程を持つ大学はほぼカバー。



JAIRO Cloud

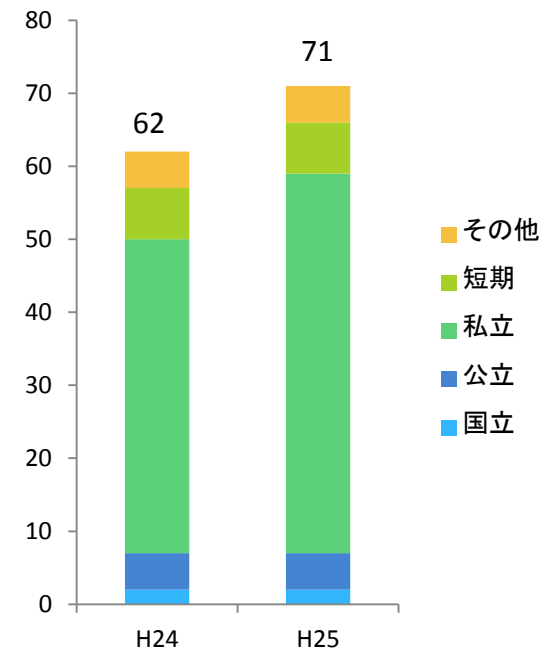
申請

	国立	公立	私立	短期	その他
H23	0	5	51	6	5
H24	4	4	23	2	0
H25			16	1	

公開

	国立	公立	私立	短期	その他
H24	2	5	43	7	5
H25			9		

公開機関



(平成25年5月末時点)

まとめ

□ 量的な展開

- 機関数の増加を短期間に達成
- コンテンツ数も順調に増加

□ 質的な向上

- 利用者からの評価の獲得
- 利用統計の分析とフィードバック
- コンテンツ収集戦略
 - ◆ 紀要
 - ◆ 電子出版
- ニーズの発掘

□ コミュニティの活性化

- 研究者へのアプローチ
- 大学経営層へのアプローチ
- 何よりも、図書館からのサポート

□ JAIRO Cloudによるさらなる普及・拡大

- 成功例の移転
- 共通サービスやDBの継続的整備
- コミュニティの形成

□ 大学を越えた連携活動の強化と持続

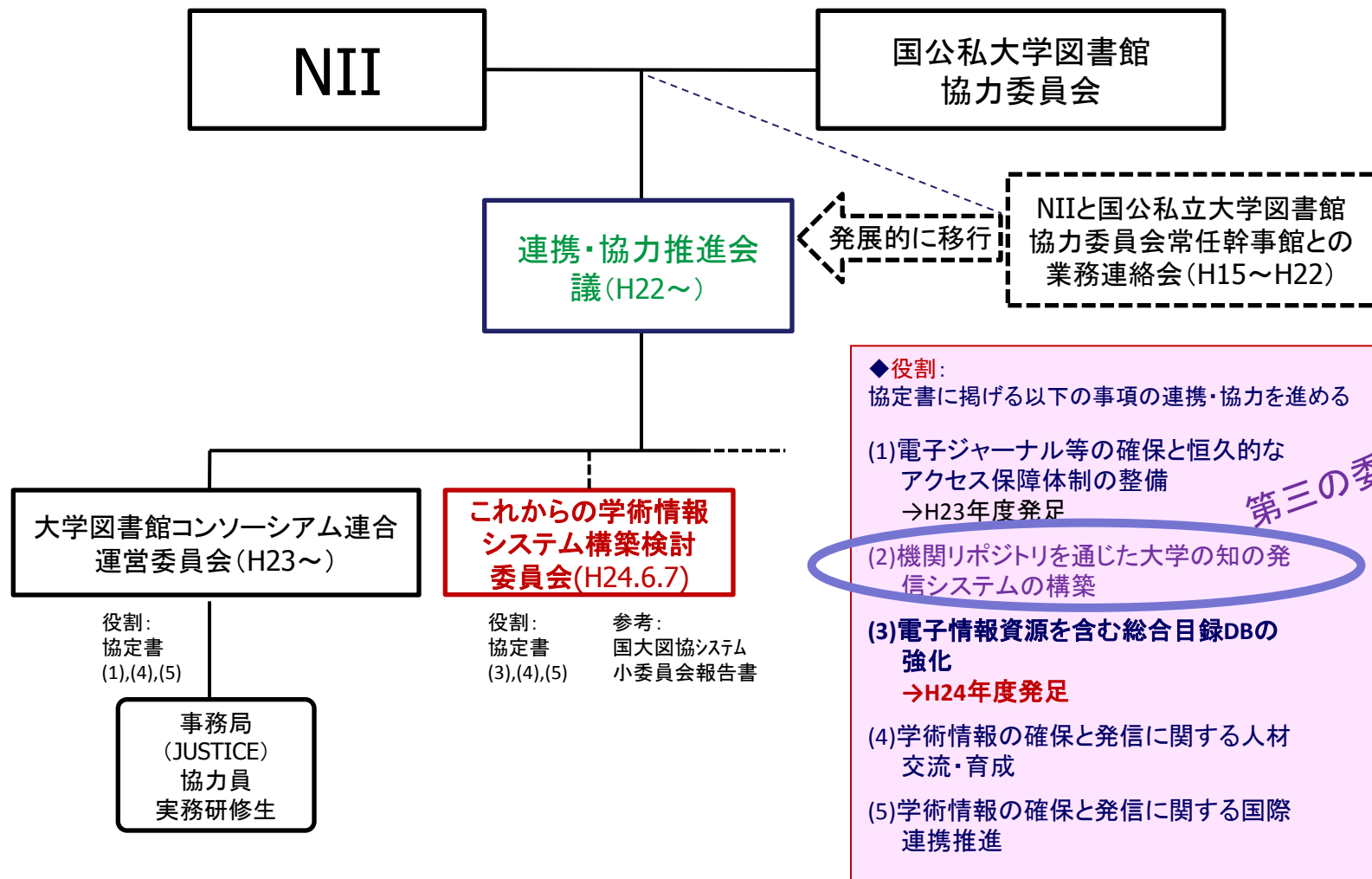
- 人材育成
- 国際連携

□ 連携・推進協力会議への期待

□ OAの推進

研究者へのアプローチ

大学との連携体制の新たな展開



つねに意識していただきたいこと

- Gold OAがメインストリームへ（図書館はスルー？）
 - オープンメガジャーナル
 - Finchレポート（UK）
 - Gold vs. Green
 - APCを、誰が、いくら、どのようにして払うのか？
- 改めて、なぜ、OAか？ 20年の紆余曲折
 - セルフアーカイブ、Gold OA、納税者のアクセス
- 登録義務化
 - 研究助成団体の動き、Global Research Council
 - 日本では学位論文が制度化、では科研費は？

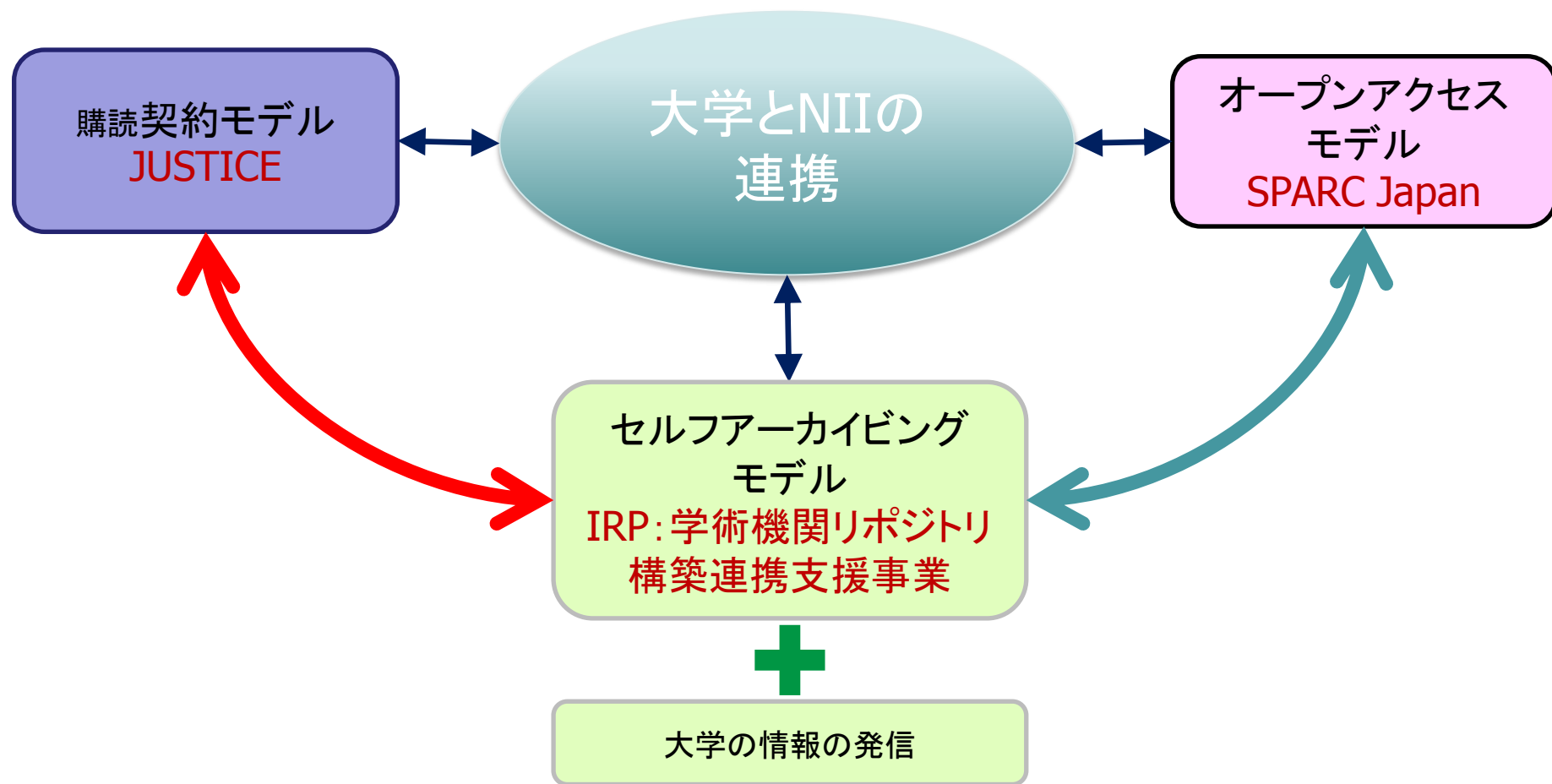
学術コミュニケーションの変革

□ 研究者の成果発信活動はどのように変わるのか？

□ くすぶり続けるインパクトファクター

■ DORA (San Francisco Declaration on Research Assessment)

セーフティネットの確立、経費の適正化ためにも
オープンアクセスの推進が重要



ご静聴、どうもありがとうございました。

二日間のOAサミットをお楽しみください。